

【3学年のまとめ】

1. 学年の取組

本学級の児童は、約束を守ったり人に親切にしたりすることが自分からできる児童が多く、友達にも優しい。また、友達の良さを素直に認め、褒めたたえる心の豊かさを持っている。しかし、自分の長所にはなかなか気づけなかったり、自分の良さを認められなかったりする様子が見られる。9月に全校で行った「よいところハート」の活動では、自分のよいところを見つけられず、「いいところなんてない。」「何て書いたらいいのかわからない。」などの声が挙がっていた。学校生活アンケートから見られる自己肯定感の低さを学年で問題視したため、今回の研究授業では「A 個性の伸長」の価値項目を取り上げ、自身のよさに気づき伸ばしていこうとする心情を育むことをねらいとした。

年間計画を確認したところ、予定されていた教科書の教材文よりも、彩の国の道徳「今日のヒーロー」の方が、自分のよいところに悩む主人公に自分を重ねて自分のよさについて改めて考えられるのではないかと考えたため、校長に許可をとり年間計画を変更したうえで教材文の差し替えを行った。

本時では、教材文を自分事としてとらえることが出来る様に、自我関与が中心の学習を展開した。「自分のよいところ」＝長所に気付かせることを、自分だけでなく、「人とのかかわり」の中で気付かせるように配慮した。そのために、保護者に事前に協力を働きかけ、児童一人一人の良いところを書いてもらったものを終末で児童に読ませる活動を設けた。家庭との連携を通して、自分のよいところを客観的に知ることにより、自分のよさに気付かせる工夫を取り入れた。

学年で1時間の授業について検討を重ね、2組・3組において授業者による先行授業を行った。授業者は発問を精査することが出来、各クラス担任は児童の授業内の様子や変容を見取ることが出来た。

2. 授業実践について

主題 内容項目【A-4 個性の伸長】

本時のねらい 主人公に自分を重ねて登場人物の心情について話し合ったり、家族からみた自分の良いところを知ったりする活動を通して、自分のよさを知り伸ばしていこうとする心情を育む。

教材名 今日のヒーロー（出典「彩の国の道徳 夢に向かって」埼玉県教育委員会）

授業者 3年1組 池端 美希



【授業の流れ】

- ①友達のいいところから、自分のよいところへ目を向けさせる。
- ②目を輝かせながら話す洋子を見ている場面を話し合う。
- ③「だれにでも良いところがある」という先生の話の聞いている場面を話し合う。
- ④自分のよいところに気づき、母親に報告する場面話し合う。
- ⑤課題に対して自分なりの考えを持つ。
- ⑥授業の振り返り、家族からの手紙

中心発問で書く活動を取り入れ、自分自身をじっくりと見つめさせることによって、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせた。また、席が近い児童と書いた内容を交流させ、様々な考えに触れて自分の考えを深められる機会を設けた。

終末では、「それでも、自分のよいところについて自信がない人はいる？」と問いかけ、数名手を挙げたことを確認してから保護者からの手紙を配付した。家族からの温かい手紙をじっくりとよみ、顔をほころばせていた。涙を浮かべる児童もいた。



児童の振り返りより

- ・わたしも、「よいところハート」に書いたのは、友達に教えてもらったよいところでした。私も、まゆみさんみたいに自分で見つける勇気が出ました。とてもありがたいです。
- ・お話の中の先生が「いいところはかならずある。」と言っていたように、自分にもいいところがあったです。
- ・家族からの手紙やお話を読んで、自分にもいいところがあるんだなと思いました。これからも自分のいいところを見つけていきたいと思いました。
- ・まゆみさんやお母さんの気持ちをたくさん考えられました。自分のいいところもたくさん見つけたいです。おかあさんから、そんな風に見られていたんだなあと手紙を見て思いました。
- ・自分のいいところって自分では気づきにくいけど、探せばたくさんあるんだなと思いました。ママとパパからのお手紙を読んで、とてもいい気分になりました。この手紙はずっと大切にとっておきたいです。

指導内容（指導者・西部教育事務所指導主事 後藤輝明先生）

- ・学級経営はとても大切。道徳の中でスキルは学べるが、それを生かせるかどうかは学級経営次第。大切にしてほしい。
- ・導入が5分でシンプル。短い時間ですっと落ちる導入を。子供たちが子供たちの意見をよく聞き合っている。
→だからこそ、お互いの顔が見える学習形態の工夫を。
- ・話し合い・聞き合いについては学年間の系統を立てて。3年生でここまでできるのであれば、4・5年生ではどうさせるかを研修で深めていくとよい。
- ・保護者を上手に巻き込んでいた。また、そのあとのフィードバックができていて、上手く連携が取れている。
→ただし、家庭との連携はメリット・デメリットを考えて行う。学級がうまくいっていない時は協力が得られない場合もある。

3. 成果と課題

- 授業後には授業の内容を学級通信の中で保護者にフィードバックすることで、手紙のお礼を伝えるとともに、道徳授業の実際を発信することが出来た。
- 授業のはじめには、「自分のよいところなんてない…」と顔が曇っていた児童が、授業の最後には自分のよいところを知り、認めることが出来ていた。また、授業後に行った学校生活アンケートでは、全員の児童が「自分にはよいところがある」という項目において、あると答えた。
- ▼簡単にできる机移動を授業に取り入れ、顔を見合って話し合うことが出来る様にする。
- ▼今回は、意欲喚起のためにネームプレートを使って板書をし、主人公の感情の変化に合わせて黒板を横書きで使用した。話し合う時間の確保のためにも整理された構造的板書の研究をしていきたい。
- ▼道徳における話し合いの系統については、来年度以降の校内研修において研究を深めていきたい。